

今月の御教え

腹は借り物というが、借り物ではない。万代の宝じゃ。懐妊の時は、神の氏子がわが胎内におると思いうて大切にせよ。

……金光教祖御理解 第八十七節……

解説

この『腹は借り物』との表現は、教祖御在世時の近世日本においては、男子の血統を存続させてゆく必要から、妻にを子が生まれなるときは、妻以外の女性に子を産ませて男系の血統の存続を図ったことを表した言葉であります。

それにしても、この言葉は当時の「男尊女卑」の道德観をあからさまに現した表現であります。そういった当時の価値観に対して教祖金光大神様は「腹は借り物ではない！女性の子を産む機能は、子孫が続き家が繁盛して行く為の宝である」と「妊娠、出産の尊厳性」と「両性の平等」を力強く説かれておられるのであります。

この御理解は、前節八十六節と同様、正に「人は皆、神の氏子であり平等である！」との教祖金光大神様・天地金乃神様の厳とした思し召しが現れた御教えであります。

なお、西条教会設立百十年の御年柄の今年、平成二十八年も残すところ、今月ひと月となりました。皆様、残されたこのひと月「神人あいよかけよの生活運動」の実を挙げるべく信心の稽古に励ませて頂きましょう。